

梅鶯仏教壮定期総会

3月27日(土)

午後6時より

役員会

同日

午後4時より

○負ける練習

相田みつを

柔道の基本は受け身
受け身とは投げ飛ばされる練習
人の前で叩きつけられる練習
人の前でこぶ練習
人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり
恥をさらす練習です
自分の力ツコの悪さを
多くの人の前で
ぶざまにさらけ出す練習
それが受け身です。

長い人生には
力ツコよく勝つことよりも
ぶざまに負けたり
だらしなく恥を
さらすことのほうが
はるかに多いからです。

生かされている今
報恩感謝の日々(一)

田村富美子(京都市)

梅鶯仏教壮年会の皆様、お元気
でお過ごしのことと存じます。
いつも会報を楽しみに読ませて
頂いており、皆様の熱心な聞法活
動には心からお慶びを申し上げます。
おります。

また、皆様方にはご本山参拝の
折などに、近くご縁を頂いてお
りますこと、有難く心から御礼を
申し上げます。

かねてより、ご住職様からな
か寄稿をとお声を掛けて頂いてお
りました。お恥ずかしながら拙文
をしたためさせて頂いたできました
ので、ご一読賜れば幸甚に存じま
す。今後ともどうぞよろしくお願
い申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
私には96歳の父と94歳にな
る母がおります。

2年前までは、二人で若狭富士
と呼ばれる山の中腹にあるお寺の
門前で、お蕎麦やコーヒーの茶店
を営んでおりました。
仕入れから接客まで二人で全て
取り仕切っておりました。
麓に住む兄弟夫婦は日・祝祭日に
そして私や弟夫婦は年に2、3回
程度手伝っております。

と一変いたしましたが、母の骨折から生活が
一変親はもちろんのこと三人の兄
弟も然りです。

母はこの二年半の間に二度も大
腿骨骨折をし、母の強い意志によ
りその都度手術を致しました。
一度目は再び店に立ちたいとの
一心でリハビリに励み、杖歩行が
できるまでになりました。
そして二度目は、一日でも長く
父と一緒に過ごしたい：との思
いで、正しく老身に鞭打つりハビ
リにて、なんとか四点杖と手摺り
を頼りに二十メートルほど歩くま
でに回復を見せてくれました。
入院中、元氣付けに足を運んだ
私が、逆に母から元氣をもらって
帰るといふ日々でした。
もちろんその蔭に、病院や福祉
施設の方々の支援があつたという
ことを抜きにしては語ることはで
きませんが・・・。
いつも前向きな姿勢と精神力、
何よりも周りの人への感謝の気持
ちを忘れない母に、医学を超えた
有難い力を感じずにはおられませ
んでした。
そんな母に無常にも昨年の暮、
若い頃患った古い病巣が悪さをし
て、呼吸器系の病気を発症してし
まい、また、転院をしなければな
らなくなりました。(次号へ)

題材法話

○正信偈を味わう ⑫

本日は龍樹菩薩様の、

顕示難行陸路苦
信樂易行水道楽
憶念弥陀仏本願
自然即時入必定
唯能常称如来号
應報大悲弘誓恩

の六句を味わいます。

が「龍樹菩薩様は、お釈迦様

正しく、私の教えを完全に解

てくるに説いてくれる方が出

に、その現れた方でした。

の道には「難行道（難しい

道）」と「易行道（やさしい

とを明らかにされたのが特

徴です。

○有無の世界を超えて

本日、6句の前に「悉能

摧破有無見」とありまし

が、龍樹菩薩様はま

ず、有るとか無いと

かにこだわることが

迷いなのだと説かれ



ました。ここに一輪の花がありま

す。その花を見てほとんどの

人がきれいだと感じるでし

ようが、けれど生物学者は

単に植物として観察するか

もしれません。観察するか

いまた、過去に懐かしい思

の花に思い出をよみがえら

せながら思い出に顔を曇ら

逆に嫌な思い出に顔を曇ら

せる人も無いとは限りませ

ん。さらには、昨日と今日と明

日とでは、その花の美しさ

も違ってきます。花の美しさ

つても、それぞれのながめ方

方、絶対の正しいという見方

絶対の正しいという見方は

ないのです。どのながめ方

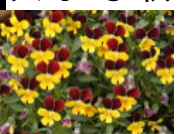
「無い」ということでは、

けっしてないのです。有の

見、固定的に見ること（有の

見、固定的に見ること（有の

定すること（無の見）も正



切であり、特定の見方や考

え方に固執することは「我

執」とであり、迷いの世界

あると示されました。

私達の争い事を見てもよ

く分かりますが、龍樹菩薩

様の時代でも、そのような

「有無の思想」による論争

が、はびこっていたように

す。

そこで龍樹菩薩様は、お

釈迦様が説かれた、「般若

経」とか「華嚴経」という

お経により、有無のこだわ

りを超えた世界が悟りの世

界で有ることを説き、同時

に龍樹菩薩さまご自身が、

「華嚴経」によって、悟り

の道を目指されたのです。

○自力難行の道

「華嚴経」による悟りの

道とは「難行道」と呼ばれ

る、自力による苦行の道で



れる位まで到達されたとい

ことです。

「歓喜地」とはどのような

段階なのかといいますと、五

十二段階ある道のりは、そ

一段一段が非常に厳しくて、

ちよつとでも油断したらす

に下へと落ちてしまいます。

私たちの生活でも分かります

すが、どんなに良い習慣を身

につけようとしても、ちよつ

と油断したらだめになつて

まいります。

いawanや厳しい修行の世界

ならなおさらです。

の歓喜地という位は、もう後

戻りすることは絶対ないとい

う、すごいところまで到達し

た位なのです。

龍樹菩薩さまはそこまで到

達されたという事です。

○龍樹菩薩様の真骨頂

とところが、龍樹菩薩様は次



の四十二段階から、同じよう

に自力修行を積んで、最後の

悟りの世界まで到達されたの

かといえますと、実はそうで

はここからが大変重要

なところですよ。

以下次号

一月例会住職法話より